

# ふるさと奥尻通信

令和6年2月22日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

青苗遺跡と言えば「勾玉」が有名だが、ウマを追いかけるヒト?を線で刻み込んで描いた土器もみついている。勾玉もウマも当時の島には遠い地方の代物だったはず。謎は深まる。

## 特集 勾玉総括プロジェクト 後編

前号に引き続き、「勾玉総括プロジェクト」の結果を紹介し、青苗遺跡の「墳墓」の構造、埋められた年代や人物像については、先生方の間で見解が分かれました。

### 【墓の構造】

- ・墳墓は扁平な山石や珪化木(木の化石)などで囲われた長径4mの大きさ。掘り込みは無く、長方形の石組の間に埋葬し、盛土されたと思われる。埋葬人骨は西頭位の伸展葬で、頭蓋骨と下肢骨の一部が残っていた(現存せず)。
- ・副葬品の玉類のうち、ガラス玉と水晶丸玉、切子玉、水晶丸玉は熱を受けて変形、ヒビ割れているので、中国大陸方面に影響された火葬もしくは着火儀礼を施した可能性が想定される。ただし、同じく副葬されていた勾玉と大刀は明確な被熱の痕跡が認められず、周辺から炭化物検出の記述がないことから、火葬墓であるとは断定できない面も指摘できる。
- ・このような埋葬方法は擦文文化には例がみられない。

### 【埋められた年代】

墳墓の埋葬年代が8世紀説と11世紀説に見解が大きく分かれました。玉類や大刀といった副葬品の年代推定では8世紀説が有力であるものの、周辺の土の堆積状況と、類似する石組遺構の存在を考えると、11世紀説も可能性があります。

#### ●8世紀説

- ・玉類の分析から、東北地方との交易で入手した伝世品の勾玉などととも8世紀に埋葬された。
- ・鉄の大刀の年代観(7世紀後葉を中心とした前後1世紀)と玉類の年代観(8世紀頃の水晶丸玉を含む)とは概ね一致。

#### ●11世紀説

- ・墳墓の付近からは、構造が似た石組が発見され、その下に鉄滓(製鉄、鍛冶の残りかす)とアシカの骨がある。周辺からは鉄滓とアシカの骨とともに11世紀頃の土器が大量に出ており、似た構造である墳墓は11世紀造営の可能性がある。
- ・土層を観察すると、墳墓から間隔を置かず17世紀降下の駒ヶ岳d火山灰が堆積するので、8世紀の埋葬には疑問。

### 【人物像】

#### ●オホーツク文化人説

- ・被葬者は8世紀代の島に住むオホーツク文化人で、ユーラシア大陸の埋葬風習に通じる着火儀礼を取り入れた葬送で葬られた。上京朝貢や渤海使に同行するなどして平城京などの都に行く機会があり、とても稀少な水晶丸玉を入手できた人物。

#### ●擦文文化人説

- ・被葬者は8世紀代の島に住む地元有力者で、7世紀以降に島に勢力を伸ばしてきた擦文文化人であり、本州古墳文化の影響を受けた埋葬方法で葬られた。北方進出する律令国家に対して海洋活動による交易を通じて経済力と地位を高めた人物。
- ・被葬者は11世紀代の島に住む地元首長で、鉄精錬や鉄製品の生産を統括し、流通を担った擦文文化人であり、ユーラシア大陸東部に由来するような着火儀礼で葬られた。鉄製品の見返りに毛皮やワシ・タカの羽根などを受け取り北東北の集団と交易を行った人物。

謎の解明を目指して取り組んだプロジェクト、専門家によって見解が分かれたものの、それだけ青苗遺跡は多くの可能性を秘めた重要な遺跡であると言えます。

### 「墳墓」の概要

#### ●●構造●●

・山石(石質不明)や珪化木で囲われている。
・長径4mほど掘り込みなく埋葬し、盛土か。
・人骨は頭蓋骨と下肢骨が部分的に残存。
・西向きに頭を向けて体を伸ばした格好。
・副葬品はガラス玉、水晶丸玉、切子玉は熱を受けて変形、ヒビ割れている。
・中国大陸方面の影響にある火葬や着火儀礼か。
・勾玉や鉄刀には明確な被熱痕跡がない。
・火葬墓であるとは断定できない要素がある。
・擦文文化の埋葬方法としては例がない。
・1640年降下の駒ヶ岳d火山灰のすぐ下にある。
・墳墓自体からは土器の出土がない。
・周辺からは11世紀頃の土器が多く出ているので、11世紀説も考慮される。



「墳墓」発見時の様子(白い箱は計測機器)



青苗遺跡の地層(白い帯は17世紀の火山灰)



ウマが描かれたような線刻画土器





奥尻のシンボルである鍋釣岩を裏側から眺めた写真です。時期的には大正時代末～昭和初期の古い時代の物で、この頃の写真類は島内にはほとんど残っていないため、貴重な史料となります。島の東海岸の谷地区を流れる釣懸川の河口から北方向を眺めた位置になります。背後にうっすらと島影があり、左手前に鍋釣岩、その沖合いには汽船が10隻余り停泊しています。この頃は、まだ奥尻港が整備される前ですので、岸壁から艇(はしけ)や小舟で行き来していたことでしょう。鍋釣岩を裏から眺めると、真ん中の穴が奥尻島の形に見えるといいます。見えますか？



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

アイヌの歴史 海と宝のノマド 瀬川拓郎

本書で筆者は「青苗文化」を提唱する。それは10世紀中葉に渡島半島の日本海側に現れた地域性のある文化集団。擦文時代後期の地域性と捉えられるが、土器の作り方は本州東北地方の「土師器」の影響が出るも、11世紀頃からは独自変化して文様が入る。土器底部には同族を示す祖印のような刻みも。住居の造りも違い、集落は環濠(堀)が巡っている。

奥尻のつり 2024年新春号

年が明けまして、1月は時化る日もありましたが、2月まで比較的暖かい日が続いていました。北海道地方の降雪量は、後志や道央日本海側で局所的に多くなっていますが、全道的には少なく、道南渡島、檜山地方は特に少ないようにみえます。2月中の暖気もあって、雪解け水が海に流れ込んで海水温は下がったことと思います。例年どおり、浜ではノリ採りが行われ、日数が少なかったものの、冬の島の風物詩がみられました。魚と言えば、サクラマスの便りがようやく聞こえ始めまして、東海岸の好ポイントを押さえたベテラン勢からは明るい話題が聞こえてきました。沖ではタラ釣り、沿岸ではゴッコ捕りの機舟が行き来していました。その他、エビかご漁も行われており、シマエビやボタンエビなどが捕れています。

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第6回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「島の子」第三号

をたて知僕だ足逃貸上どをい計暫く行一返行来て  
 涙。それは。袋げしっ食べをく風っ飯しくい→そつ  
 んだっずそ下裸ててとっか見世もた使てかど姉のづ  
 だが悲の駄足くけ何言てらな間見方にやらよ父内き  
 い次父し後をでるれ度っ黙裏が話えが来っ先よ父に  
 たのい姿は僕時→もたっのらをな良んたにと居姉  
 。朝方様をいの、と禮。て方→しかいだ。行いな  
 、をな見て家下言を姉寝か姉てっか僕げっ子  
 姉見心送出ま駄っいはたらおいたとらのなたか  
 はてもってでもたっ黙方は父た、言一母アがら  
 元涙ちて行来は。てっがいが父そっ→姉飯走  
 氣をに何ったか裏→て良→たがれたし祖とは食  
 にふなとたのずか下立いてこ柱かがよ母追っい  
 水いっも。にら駄 飯な時ら行にもい今にき

暖冬傾向顕著

想きるでくこいにす数い予  
 的ま時、など、降り年冬測今  
 でせも重つがスつよ、と通冬  
 すん時いて難キたう二なりは  
 が。々濡きし！雪に月つ、暖  
 ど安あれてい場が思にて島冬  
 う定の雪いシの溶い暖い内だ  
 にしのがま！斜けまがす雪う  
 もたでドすズ面てすがす雪う  
 :冬油ン。ンをし。入。の  
 が断とーが保まーりこ少な  
 理で降方多つ 月やこなう



タヌキの親子

かなりまで夕きも濟あの水試東  
 ねつ出し、又まあみつで道掘海昨  
 。てした周キせりのた、敷調岸年  
 見た。辺のん、範こか設査にの  
 にも重を親で遺困となにをあ十二  
 来の機ウ子し構にとり伴行る二月  
 ただで口がた、重、狭うい東月  
 のか急ウ出。遺な過い調ま風初  
 でらに口て調物つ去範査し泊旬  
 し、穴しき査はたに困でた遺、  
 よ氣をてま中出こ調でし。跡島  
 うに掘いし、てと査 た下での

タヌキも気になる？

新水之記録 (編集後記)

えたけなる気はたじ生か日  
 めいてつな温な。さきさの新年  
 にと体てどがくどせれる航年  
 。こ調い、十二ももとと機々早  
 る管ま寒度二ももとと事々々  
 で理す暖に月気のへとも故の自然  
 すに。差達だ候でのも難にに自然  
 は年のすともも難にに自然  
 お気度あるい穩あし、は災害と  
 酒を末る日うやりさ平大害と  
 はつに冬ものかまを穩変驚  
 控けむとあにでし感に

街の様子も変わります

奥尻舎昨年より、奥尻町役場  
 代築小建設計が、奥尻町役場  
 奥尻舎昨年より、奥尻町役場  
 代築小建設計が、奥尻町役場  
 奥尻舎昨年より、奥尻町役場  
 代築小建設計が、奥尻町役場  
 奥尻舎昨年より、奥尻町役場  
 代築小建設計が、奥尻町役場



今月の一枚 擦文土器発見 (10世紀末～11世紀か)